

知的プロセスを大切にした高校 英語授業のモデルの開発

「生き方が見えてくる高校英語授業改革プロ
ジェクト」3年目発表

科研費
KAKENHI

(23531265)

- 伊佐地恒久（岐阜聖徳学園大学）
- 伊藤高司（名城大学附属高校）
- 大橋昌也（名古屋経済大学市邨高等学校非常勤講師）
- 加藤和美（東海大学海洋学部）
- 後藤伸之（愛知県立蒲郡高等学校）
- 杉山剛浩（名城大学附属高校）
- 関静乃（静岡大学・非常勤）
- 竹内美芳（静岡県立科学技術高等学校）
- 永倉由里（常葉学園短期大学）
- 山本孝次（愛知県立大府東高等学校）
- 對馬信之（青森県立青森南高等学校）
- 亘理陽一（静岡大学）
- 三浦孝（静岡大学）
- 柳田綾（愛知県立阿久比高等学校）

Part 1:なぜ「知的プロセス」か

- 議論に加われない英語熟達者
- 自分のアイデア/問題意識を持たない英語熟達者
- “I agree with you.”を乱発する英語熟達者
- 「英語は道具だ！だから必要だ！」←「単なる道具なら、私には必要ありません」という学習者

旧来の高校英語授業の問題点

教材英文

何が足りない？

内容理解活動

文法・語法解説

単なる答え
合わせの授
業

学習完了

テスト

1. 生徒の疑問や問題意識
2. 生徒の感想
3. 調べ学習
4. 読んだものをどう役立てるか
5. 生徒同士の意見交流

- 日本の高校英語教科書は、フィンランドや韓国の教科書に比べて、教材内容に関するWhat do you think and why?の設問が少ない。
- (峯島道夫、他「日本・韓国・フィンランドの英語教科書の設問の比較分析調査」2012・7.1 第42回中部地区英語教育学会岐阜大会)

知的プロセスを加えた英語授業

教材英文

文法・語法解説

内容理解活動

情報の味
わう

情報の吟
味

シミュレーション

感想
自分にとっての意味
級友はどう考えているか？
創作

事実,伝聞,憶測？

主張に根拠有るか？

多面的に見ているか

暗黙の前提が無いか

無視している情報が
無いかな？

論理は成立している
か

本研究が設定した知的プロセス

1. 繰り返し味わうに足る、内容・英文ともに豊かな教材
2. その課の頂上タスクを設けることにより、聴解・読解に目的を持たせる
3. 聞き/読んだ物語について、感想や意見を出し合う
4. 聞き/読んだ論説文について、疑問/意見/対案等を出し合う
5. 生徒の調べ学習によって授業内容を深化・拡充する
6. 意味ある課題を通して、重要文法事項をspiral的に学ぶ

更にもうひと工夫→

和訳一辺倒でない、適材適所の内容理解活動

英文

receptive task
(さがす作業)

~を表した箇
所をマークせ
よ

賛成論、反対
論を囲め

productive task(変換作業)

別の言語

概念図 (graphic organizer)

表

フローチャート

別のスタイル

サマリー

高校時代、英語に費やす時間

50分の英語授業を週5回

そのつと予習復習に計50分の勉強を

年間52週間、

3か年間続けると想定して

→合計1,300時間を英語に費やす

この1,300時間をどう過ごすか？

A: 一生の土台となるような、あこがれ・インスピレーション・問題意識・批判力・対人コミュニケーション力を受け止め、育てる英語授業か

B: 「Comprehension Check-up: 本文の内容に一致するものの記号を答えよ」の答合せに終始する英語授業か(これで、オームを信じた有名大学生の再来を防げるか？)

「でも、大学入試で問われるのは Comprehension check-upではないか？」

関、他(2011)の33国・私立大学2008～2009年度入試問題分析の結果では、大学入試問題は着実にコミュニケーション(タスク型/意見表明型/場面・文脈を伴った推論発問型)の傾向を増しています。

本日13:35～14:05 自由研究発表第13室
「大学入試はどのような力を試そうとしているのか？」(亘理、他)で詳細分析結果を報告します。

Part 2: 実際の授業プランで具体例を見る

1. 繰り返し味わうに足る、内容・英文ともに豊かな教材
2. その課の頂上タスクを設けることにより、聴解・読解に目的を持たせる
3. 聞き/読んだ物語について、感想や意見を出し合う
4. 聞き/読んだ論説文について、疑問/意見/対案等を出し合う
5. 生徒の調べ学習によって授業内容を深化・拡充する
6. 意味ある課題を通して、重要文法事項をspiral的に学ぶ